

たじみん昼話 85

大学入学共通テストで 100 点を取る物理の勉強方法 2

(2) はじめから解けないのが普通

よほど簡単な問題でない限り、最初の一回では正答できないのが普通だ。以下に示すように、何回も各段階を制覇しながら理解度と定着度と正答率を上昇させていくのが実力アップの早道である。

レベル 1 解答例を見ても理解できない問題は、とりあえず機械的に答えを書き写す。
※やっているうちに、周辺から理解が進むことが多いから。

- ↓
レベル 2 以前理解できなかった問題の解答を理解しながら書き写す。
↓
レベル 3 時間がたくさんあれば、ほぼ正答できる。理解できたレベル
↓
レベル 4 制限時間内にほぼ完璧に正答できる。 入試レベル

※ 生徒のノート点検をしていると、総合問題まで自力で解いた苦勞が伝わってくるノートから問題を単に書き写しただけのノートまで目にする。しかしこの時点で実力に大きな差がついていることが教員にはわかるのだ。(自分のノートしか知らない人には理解できないだろうが)別表の「入試合格までの学習到達度」を参照してほしい、前者は「6段階」、後者は「03段階」であり相当な開きがあること分かるだろう。したがって、「ノートを提出したから自分は力がついた」と安易に思わず、「どれだけ苦勞したのか」にこだわって学習してほしい。

(3) 長期休暇中の学習について

物理は、問題演習に時間をかけることが重要な科目である。(数学も同様だ)だから、日々の学習に物理の演習を組み込むのが理想だ。しかし平日に集中してじっくり演習する時間は取れないのが大半の生徒の状況であろう。そうすると時間が取れるのは土日や長期休暇しかない。この時間は演習を行う貴重なチャンスと捉え取組もう。

先輩達の反省でも、土日や長期休暇にどれだけ本腰を入れて取り組んだかによって、入試直前の伸びが全く異なったという声は多い。また、その取り組み方も重要で、自分で考えぬいて取り組んだ人と、答を機械的に写した人とでは雲泥の差がついたことは説明するまでもないだろう。

別表に各長期休暇にやると良いお薦めの課題をまとめた。課題の種類によってはノート提出やテストを自らに課すことで、ある程度のレベルをクリアすることを推奨する分野もある。

特に大切なのは「1年の夏休み」と「1年の春休み」である。1年の夏休みは「力学の基礎固め」、1年の春休みは「力学の完成と入試問題への助走」という位置付けだからだ。「時期別到達目標」をよく読み、その必要性を理解し、演習を実行して大学入学共通試験で100点満点を目指そう。

続きは 86 へ